

心に残る記念事業

豊田市中学生のためのコンサート

2025.

8月 19 火 20 水 21 木

豊田市コンサートホール

with 名古屋フィルハーモニー交響楽団





豊かな感性を育む音楽を

豊田市長

太田 稔彦

今年も、名古屋フィルハーモニー交響楽団を迎え、中学3年生の皆さんに、素晴らしい音楽をお届けできることを大変嬉しく思います。

本ホールは、平成10年にオープンし、平成15年にはパイプオルガンを設置しました。国内外のアーティストからも、高い評価を得ています。演奏とともに、この施設の魅力にも触れていただければ幸いです。

未来を担う皆さんには、文化芸術に親しむことで豊かな感性を育んでもらいたいと願っております。そして、豊田市が文化芸術を身近に楽しめるまちであることを実感し、本市への愛情と誇りが大きく育っていくことを期待いたします。



本物の芸術体験を

豊田市教育委員会教育長

山本 浩司

本物の芸術に触れることにより、中学生の感受性が高まることを願って始まった「心に残る記念事業」は、今年で35回目を迎えます。

パイプオルガンの重厚かつ荘厳な音色。ロッシーニ、バッハ、ブラームス等の優れた作曲家による心に響く楽曲。芸術は、時代を越えてたくさんの感動を私たちに与えてくれます。スメタナが故郷への深い愛情を込めた曲「ヴルタヴァ（モルダウ）」は、本市を流れる矢作川の美しい水音や四季折々の豊かな風景と重なって、皆さんの心に刻まれることでしょう。

素晴らしい芸術に触れることで、皆さん一人一人の心に、豊かな感性がより一層育まれることを願っています。

演奏曲 紹介

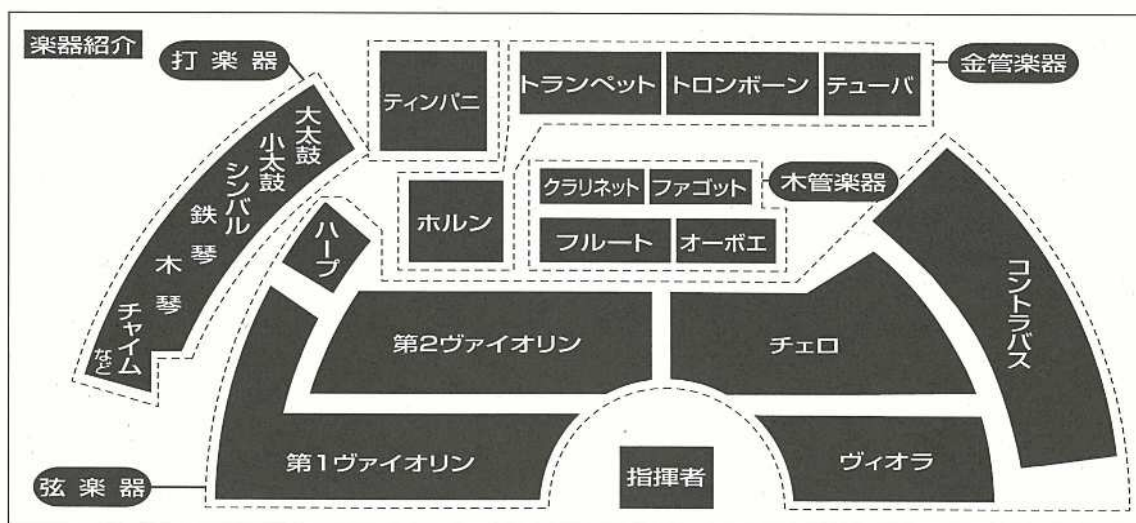
■ロッシーニ：歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」

ジョアキーノ・ロッシーニ（1792-1868）はイタリアの作曲家で、特に歌劇（オペラ）を得意としていました。彼の最後のオペラが《ウィリアム・テル》です。14世紀のスイスの英雄を題材としており、息子の頭の上に乗せられたりんごを弓矢で射落とすシーンは特に有名です。オペラの幕開けに演奏されるこの序曲は、4つの部分からできています。本日演奏する「スイス軍の行進」は最後の部分で、金管楽器によって華やかなファンファーレが響き、スピード感のあるメロディが続きます。

【楽器紹介（オーケストラ）】

■ボブ佐久間：インストゥルメンタル・ブルース

舞台をご覧のとおり、オーケストラにはたくさんの楽器が使われています。皆さんはどれだけの楽器を知っているでしょうか？この曲ではブルースのリズムとメロディにのせ、弦楽器（コントラバス、チェロ、ヴィオラ、ヴァイオリン）→木管楽器（ファゴット、クラリネット、オーボエ、フルート）→金管楽器（トロンボーン&チューバ、ホルン、トランペット）→打楽器&ハープの順番でオーケストラのありとあらゆる楽器をご紹介します。ナレーションも合わせて、目と耳の両方でお楽しみください。



名古屋フィルハーモニー交響楽団の通常の楽器配置

【楽器紹介（オルガン）】

■バッハ：フーガ ト短調 BWV578『小フーガ』

「音楽の父」ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685-1750）は、西洋音楽史上最も偉大な作曲家と言っても過言ではありません。膨大な数の作品を残し、自身も鍵盤楽器奏者として活躍しました。彼が得意とした「フーガ」という形式は、ひとつのメロディが「声部」と呼ばれる複数の音域で形を変えながら繰り返され、緻密に音楽を構築する作曲法です。《小フーガ》という愛称のあるこの曲は、4つの声部による「4声のフーガ」として作曲されており、冒頭のメロディは特に印象的です。

■ロッシーニ：歌劇『セビリャの理髪師』より「陰口はそよ風のように」

ロッシーニが1816年、24歳で書き上げたオペラ《セビリャの理髪師》は、スペイン南部の都市セビリャ（セビリアとも表記）を舞台とした喜劇で、ロッシーニはこの曲でヨーロッパ中に名声を轟かせることになりました。アルマヴィーヴァ伯爵と美しい娘ロジーナの恋を、理髪師フィガロが困難を乗り越えて取り持つ物語です。「陰口はそよ風のように」は、第1幕第2場で演奏されます。ここではロジーナの資産を狙い、結婚を迫る医師バルトロが登場、彼はロジーナに惹かれているアルマヴィーヴァ伯爵の存在がどうしても目障りです。そこでバルトロの音楽教師バジリオが、「伯爵の陰口をロジーナに吹き込めば良いんですよ」と提案する場面で、このオペラ・アリア（歌劇中の独唱曲）が歌われます。最初はささやくように始まり、やがて短いフレーズを繰り返しながら大きく盛り上がる「ロッシーニ・クレッシェンド」が使われます。陰口の広まる様を面白おかしくまくり立てる、バス歌手の独唱にご注目ください。

【全員合唱】

■村井邦彦 [岩本渡編曲]：翼をください

《翼をください》はフォークグループの「赤い鳥」が1971年に発表した歌謡曲です。のちに教科書に収録されると合唱曲としても有名になり、1970年代後半から学校教育の場でもよく採り上げられ、誰もが歌える1曲となりました。本日はオーケストラの伴奏で、一緒にこの名曲を歌いましょう。

【指揮者体験】

■ブラームス：ハンガリー舞曲第5番

ドイツの大作作曲家ヨハネス・ブラームス（1833-1897）は1853年、ハンガリー出身のヴァイオリニスト、エドゥアルト・レメーニと一緒に演奏旅行に出かけます。そこでレメーニからロマ（ジプシー）の民族音楽を教えられ、大きな興味を持ちました。その旋律を2台ピアノ用にまとめたのが「ハンガリー舞曲集」です。21曲の舞曲集は、ブラームス自身や様々な音楽家たちによってオーケストラ用に編曲もされており、中でも「第5番」が一番有名な楽曲です。テンポがたくさん変わる難しい曲ですが、指揮者はどのようにオーケストラに合図をしているのでしょうか？今日は指揮者＝中井章徳さんに指揮について教えてもらい、代表の方にオーケストラの指揮を体験していただきます！

■スメタナ：交響詩『ヴルタヴァ（モルダウ）』

ベドルジハ・スメタナ（1824-1884）は、チェコを代表する作曲家です。オーストリアの一部となっていたチェコの人々の気持ちを高める音楽をたくさん書き、“チェコ国民音楽の父”と呼ばれています。代表作である《ヴルタヴァ（モルダウ）》はチェコの大地を流れるヴルタヴァ川（ドイツ語読みではモルダウ川）の様々な表情を音楽で表しており、スメタナの故郷への愛が込められています。フルートとクラリネットによって表現される2つの小さな流れが、やがて合流して1本の大きな川となり、ここであの有名な「モルダウの主題」が演奏されます。流れは狩りの角笛や田舎の婚礼の踊り、妖精たちの踊りを眺めながら、急流にさしかかります。流れが緩やかになると、川は古いお城を横に見つつ、プラハへと流れ込むのです。

演奏者 紹介



指揮とお話 / **中井 章徳** Akitoku NAKAI

岡山県倉敷市生まれ。小学5年生からトロンボーンを始め、中学生のときに世界的指揮者・朝比奈隆氏が率いるオーケストラの演奏に感動し、同時期に読んだ指揮者・岩城宏之氏の著書『岩城音楽教室』に強く影響を受け、指揮者を志す。

岡山城東高校音楽コースを経て、岩城氏が最高音楽顧問を務めていた作陽音楽大学（現・くらしき作陽大学）で指揮を専門的に学び、首席で卒業。その後はドイツやイタリア、桐朋オーケストラ・アカデミーなど国内外で研鑽を積み、2024年に京都市立芸術大学大学院博士課程を修了、音楽博士号を取得。

ポーランドの国際指揮コンクールでは最高位を受賞。イタリア・ミラノのヴェルディ・ホールにてオペラ『椿姫』を指揮してヨーロッパデビューを果たし、2023年には作曲家マスカーニ生誕160周年記念公演『カヴァレリア・ルスティカーナ』を指揮し

て現地で高く評価された。

現在は、出雲芸術アカデミーおよび出雲フィルハーモニックの芸術監督を務めるほか、浜松ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、北九州シティオペラ客演指揮者、出雲観光大使としても活動。「演奏・研究・教育」の三本柱を軸に、オーケストラやオペラの指揮、ジュニアオーケストラや学校での指導、コンクール審査など、多岐にわたる取り組みを通して、音楽の魅力を次世代へと伝えている。



オルガン / **徳岡 めぐみ** Megumi TOKUOKA

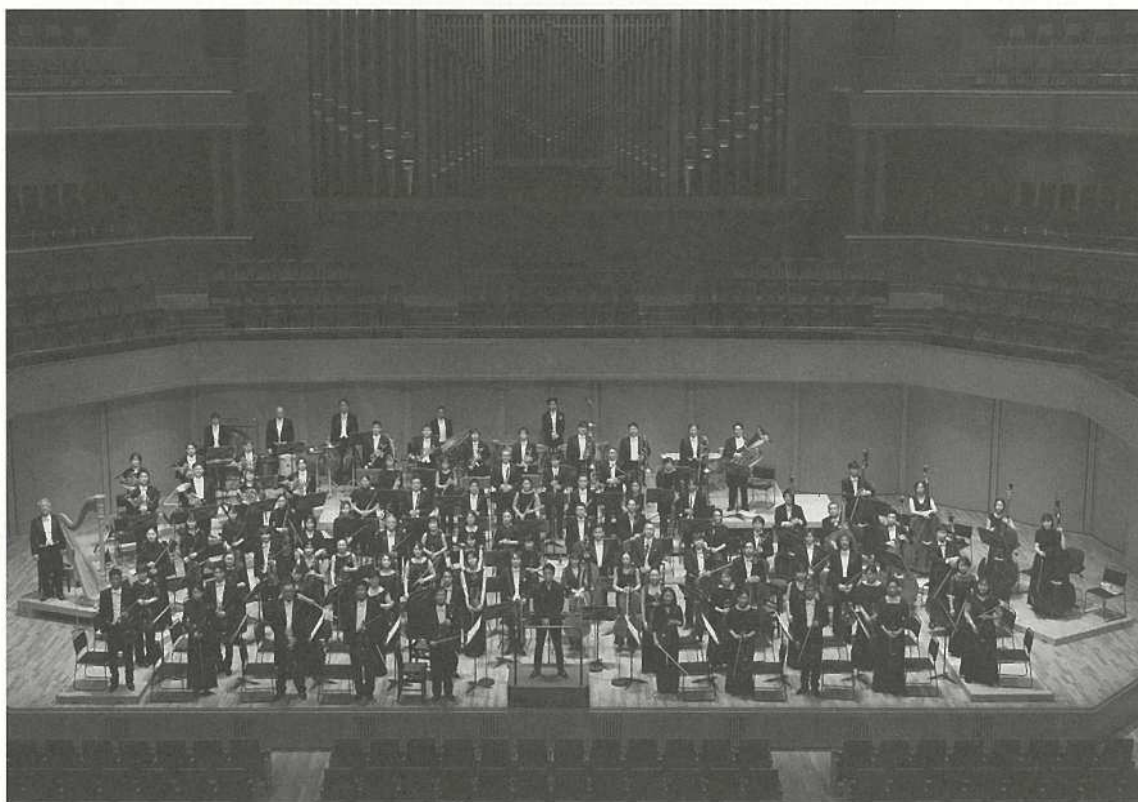
東京藝術大学音楽学部オルガン科卒業、同大学院音楽研究科修了。安宅賞受賞。ドイツ国立ハンブルク音楽大学を卒業。オルガンを植田義子、廣野嗣雄、ヴォルフガング・ツェラーの各氏に師事。2001年オランダのアルクマールのシュニットガー国際オルガンコンクールで優勝、併せて聴衆者賞も獲得する。同年、ハンブルク音楽大学でDAAD賞を受賞し、受賞記念コンサートをハンブルクの聖ヤコビ教会で開催する。2002年北ドイツ放送（NDR）音楽賞国際オルガンコンクールで2位を受賞する。帰国後、国内外のコンサートホールや教会などで演奏活動を行う。近年では、能楽やプロジェクション・マッピングとのコラボレーションなど、多彩なジャンルとオルガンとの可能性を探りながら積極的な活動を行っている。

現在、豊田市コンサートホールオルガニスト、東京芸術劇場オルガニスト、東京藝術大学非常勤講師、片倉キリストの教会オルガニスト、国際基督教大学オルガニスト。



バス / **伊藤 貴之** Takayuki ITO

名古屋芸術大学首席卒業。同大学院修了。奨学金を得てミラノで研鑽しイタリアでオペラやコンサートに多数出演した。第41回イタリア声楽コンクール金賞受賞、第48回日伊声楽コンクール第2位、第6回Gゼッカ国際声楽コンクール第2位入賞など受賞歴多数。帰国後は新国立劇場、日生劇場、東京文化会館、東京芸術劇場、愛知県芸術劇場、大阪フェスティバルホール、びわ湖ホール等全国の主要な劇場に出演している。近年は新国立劇場開場25周年記念公演「アイダ」国王や、日生劇場開場60周年記念公演「メデア」クレオンテ、「マクベス」バンクォー役。チョン・ミョンフン指揮東フィル定期公演「マクベス」医師、佐渡裕プロデュースオペラ「蝶々夫人」ボンゾ、藤原歌劇団公演「ファウスト」メフィストフェレス役で出演し好評を博す。故小澤征爾指揮のベートーヴェン「第九」のバスソロや、ヴェルディ「レクイエム」などの合唱曲のソリストとしても活躍している。2025年NHKニューイヤーオペラコンサートに出演。昨年、豊田スタジアムで行われたFIA世界ラリー選手権のオープニングセレモニーで国歌独唱を務めた。平成24年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。平成29年度豊田市文化振興財団豊田文化奨励賞受賞。藤原歌劇団団員。名古屋芸術大学非常勤講師。



名古屋フィルハーモニー交響楽団

Nagoya Philharmonic Orchestra

日本有数のオーケストラの一つとして、愛知県名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードし続けている。その革新的な定期演奏会のプログラムや、充実した演奏内容で広く日本中に話題を発信し、“名フィル”の愛称で地元では親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。

2023年4月より、名フィル指揮者・正指揮者を12季務めた川瀬賢太郎が音楽監督に就任。現在の指揮者陣には小泉和裕（名誉音楽監督）、小林研一郎（桂冠指揮者）、モーシェ・アツモン（名誉指揮者）、ティエリー・フィッシャー（名誉客演指揮者）が名を連ねている。また2023年4月には小出稚子が第4代コンポーザー・イン・レジデンスに就任。

楽団創立は1966年。1973年に財団法人に、2012年に公益財団法人となる。2013年に東海市、2016年に愛知県立芸術大学、2018年に豊田市と、それぞれ音楽教育の推進や文化芸術の振興を目的とした協定を締結している。

現在は、意欲的なプログラミングの「定期演奏会」をはじめ、親しみやすい「市民会館名曲シリーズ」、障がいのある方を対象とした「福祉コンサート」など、バラエティに富んだ年間約110回の演奏会に出演している。